

# えひめの歴史文化モノ語り

県歴博収蔵資料から ⑩

今回紹介する資料は、1、2交代制で勤務している。944(昭和19)年度松山中学校(現松山東高校)5年生の通知簿である。なぜか2、3学期の評価がない。資料に記載の橋爪陽一氏(1927、勤員中の4、5年生374(2014)は伊予市中山町出身。1940(昭和15)年4月に入学、45(同20)年3月に卒業している(当時の中学校は5年制)。5年生の2学期に何があったのか。遺された日記などから探った。

その結果、新居浜の住友機械工業へ勤労働員を命じられていたことがわかった。44年8月、橋爪氏は中学校の壮行会で「松中精神」の発揮を、現地に入社式では使命の完遂を宣誓している。翌月から金属加工に従事していたが、赤痢に悩まされたり、機械でけがをしたりすること

焼け野原になった松山がスケッチされている。橋爪氏は終戦を中山町で迎えた。しかし、8月27日まで日記の記載はない。驚歎、失望、落胆」して日記を書く気も開く気もなかったと述べている。これまで必死で働き、必死で勉強してきた勤労学徒にとつて、終戦はあまりに大きなショックであった。10月に授業が再開。以後、橋爪氏は医師を目指す。

7月に松山高校の入学式が行われたが、再び勤労働員により西条の山中で土木作業に従事した。29日、松山空襲の報を受けた橋爪氏は、空襲の報を受けた橋爪氏は、現地の入社式では使命の完遂を宣誓している。翌月から金属加工に従事していたが、赤痢に悩まされたり、機械でけがをしたりすること

通知簿の空欄は、戦争で勉強する場を奪われ、勤労働員を命じられた学徒の存在を意味していた。勤労働員に従事と記入されることもなく、空欄のままにされた通知簿は、あまりにもごみしく感じられてならない。本資料はテーマ展「戦後75年 伝えたい10代の記憶」(9月12日〜10月25日)で初公開する。

## 勤労働員空欄の悲しさ

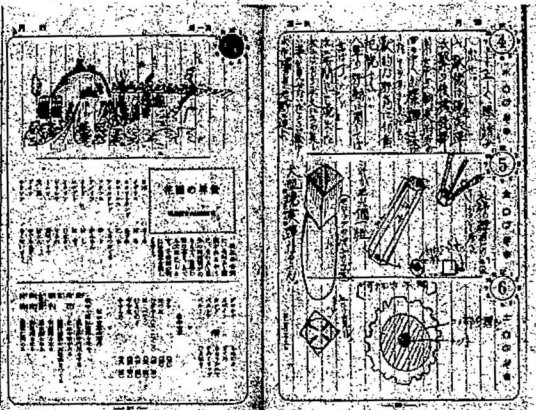
(専門学芸員・平井誠) 8月2回掲載します

## 松中生の日記と通知簿



日	月	年	時間	内容
1	8	1944		
2	8	1944		
3	8	1944		
4	8	1944		
5	8	1944		
6	8	1944		
7	8	1944		
8	8	1944		
9	8	1944		
10	8	1944		
11	8	1944		
12	8	1944		
13	8	1944		
14	8	1944		
15	8	1944		
16	8	1944		
17	8	1944		
18	8	1944		
19	8	1944		
20	8	1944		
21	8	1944		
22	8	1944		
23	8	1944		
24	8	1944		
25	8	1944		
26	8	1944		
27	8	1944		
28	8	1944		
29	8	1944		
30	8	1944		
31	8	1944		

1944(昭和19)年度松山中学校(現松山東高校)5年生の通知簿。2、3学期の評価が空欄となつてい



松山空襲で落とされた焼夷弾と焼け野原になった街をスケッチした日記